

学生団体 Change

田中湧大（環境人間学部 2 回生）

キーワード：子ども，地域交流，イベント企画

1. 団体概要

学生団体 Change は地域課題を発見し，地域の課題を解決することや地域の輪を広げることを目的としており，人と人とのつながりを重視して活動している。主に小学生以下を対象としたイベントを企画・運営している。学生が主体となって活動することで世代間交流の場となることを目指している。2019 年 6 月に発足し，現在は 2 回生 6 人，1 回生 2 人の計 8 人で活動している。

2. 2022 年度の活動について

今年度上半期は，コロナウイルスによる活動制限の緩和により，兵庫県高砂市の子ども食堂のボランティアに参加し，地域の方々，子どもたちと一緒に昼食をつくって食べる活動を行った。地域の人と交流を深めるとともに，子どもたちに寄り添うイベントとそれらを主催する大人たちの強いつながりを肌で感じ，感銘を受けた。

また，「コープこうべ第 7 地区本部」の主催する様々なイベントにボランティアとして参加し，知識を深め，今後の活動に活かすことのできる多くの経験を積んだ。以下にその活動を記す。

・森林学習会

「兵庫県森林組合連合会」の方にご協力いただき，兵庫県産の木材および国産の木材の現状と課題について学んだ。

・坊勢島漁業体験

「坊勢漁業協同組合」の方々のご協力のもと，船上での底引き網漁の見学や魚の選別体験，坊勢島での魚の中間育成施設や冷蔵施設の見学を行った。

・環境学習会

「海と空の約束プロジェクト」「兵庫県森林組合」「株式会社シンワ」「中本製箸」等多くの方々に，3 回に渡ってプラスチックごみ問題や 3R，国内の森林についての講義をしていただいた。

・アレルギー学習会

「姫路食物アレルギーの会オリーブ」の方々から食物アレルギーを持つ子どもの話や同会の活動内容を聞き，食物アレルギーに対する見聞を広めた。

・国見の森万年カレンダー作り

「国見の森」の方々にご協力いただき，展望台を散



写真 1 しろみエールイベント内作品例
(ジェルキャンドル)



写真 2 しろみエールイベント内作品例
(ハロウィンバッグ)

策したり森に住む動物についての話を聞いたり，現場で伐採された木材を使用したカレンダー作りを行った。

さらに，大学のゼミである太田ゼミの方々，姫路市内の総合施設「イーグレ姫路」内のイベントスペース「しろみエール」らと連携し，地域の子もたちを対象にしたクラフトイベントを行った。今までの，イベントに参加させてもらうという形から少し発展し，イベントスペース内で Change のブースを設け，自分たちで考えたイベントを行うという半能動的なものであったため，イベントを企画したり当日自らが子どもたちに説明したりといった，より実践的な活動となった。

他にも，「子育てサロン」主催のイベントへの参

加など、メンバー個々のボランティア活動を通して団体としての経験を積んだ。

12月の最後に、「コープこうべ第7地区本部」のご協力の下、これまでのイベント、ボランティア活動の集大成として自分たちで企画立案から実施方法までを考え、実行した。企画内容は「自分だけの万年カレンダー作り」で、前述の「国見の森万年カレンダー作り」から着想を得たものとなっている。

3. 活動を通して学んだこと

はじめに、子ども食堂の活動を通して、周囲を見渡し、自身の役割を見出す姿勢を得ることができたと考える。子どもたちの中には周囲の輪に入れず1人である子どももいる。そのような子どもを見つけ、自らが話しかけて一緒に遊ぶ・他の子どもと交流できるよう仲介人として働きかけるなどその場で求められていることを自ら探して行動することが多々あった。この周囲の状況を見て自身の役割を見出す姿勢は、これからのミーティングや他の活動を円滑に進めていくうえでとても大切なことだと考える。

また、コープこうべ主催イベントでは国内の森林における課題やプラスチックごみ問題、食物ア

レルギーについてなどの単純な知識を学べたことにとどまらず、イベントを企画、実行することの大変さ、参加してもらうことの大変さやありがたさ、それには多くの人たちの協力が必要不可欠であることなど、Changeとして活動していく上で必要な経験を数え切れないほど積ませていただき、メンバー全員、ひいては団体として大きく成長できたと感じている。

4. 今後の展望

2022年はコロナウイルス制限の緩和もあり、様々なイベントにボランティアとしてすることができた、Changeが大幅に活躍することができた良い一年だった。コープこうべ第7地区本部様をはじめいろいろな団体の方たちとのコネクションも増え、2023年はこれら団体の方々と積極的に関わって、Changeの活動をさらに広げていこうという決意で、そのためのメンバー勧誘もかかさずやっていく。

反対に、2022年はSNSでの発信は少しおろそかであったように思う。イベント毎に内容を写真でインスタグラムにアップすることはもちろん、これからの活動内容やChangeという団体そのものを積極的に宣伝して、さらなる活動拡大につなげたい。